

## 1日 木曜

### 列王Ⅱ

18:1 イスラエルの王エラの子ホセアの第三年に、ユダの王アハズの子ヒゼキヤが王となった。

18:2 彼は二十五歳で王となり、エルサレムで二十九年間、王であった。彼の母の名はアビといい、ゼカリヤの娘であった。

18:3 彼は、すべて父祖ダビデが行ったとおりに、【主】の目にかなうことを行った。

18:4 高き所を取り除き、石の柱を打ち砕き、アシェラ像を切り倒し、モーセが作った青銅の蛇を砕いた。そのころまで、イスラエル人がこれに犠牲を供えていたからである。これはネフシュタンと呼ばれていた。

18:5 彼はイスラエルの神、【主】に信頼していた。彼の後にも前にも、ユダの王たちの中で、彼ほどの者はだれもいなかった。

18:6 彼は【主】に堅くつき従って離れることなく、【主】がモーセに命じられた命令を守った。

18:7 【主】は彼とともにおられた。彼はどこへ出て行っても成功を収めた。彼はアッシリアの王に反逆し、彼に仕えなかった。

18:8 彼はペリシテ人を討ってガザにまで至り、見張りのやぐらから城壁のある町に至るその領土を打ち破った。

18:9 ヒゼキヤ王の第四年、イスラエルの王エラの子ホセアの第七年に、アッシリアの王シャルマネセルがサマリアに攻め上って来て、これを包囲し、

18:10 三年後にこれを攻め取った。すなわち、ヒゼキヤの第六年、イスラエルの王ホセアの第九年に、サマリアは攻め取られた。

18:11 アッシリアの王はイスラエル人をアッ



シリアに捕らえ移し、彼らをハラフと、ゴザンの川ハボルのほとり、またメディアの町々に定住させた。

18:12 これは、彼らが彼らの神、【主】の御声に聞き従わず、その契約を破り、【主】のしもべモーセが命じたすべてのことに聞き従わず、これを行わなかったからである。

ヒゼキヤは父が悪王であったにもかかわらず、「主の目にかなうことを行った。」とあります。母がゼカリヤの娘であり、預言者イザヤと関わりがあり、また同時期にイスラエルが不信仰ゆえに滅ぼされた様子から教訓を得たこともあったでしょう。

様々なことから信仰の糧を得る人もあれば、何を見ても悟らない人もいます。ヒゼキヤのように悟る人となりましょう。

ヒゼキヤは偶像につながるものは「取り除き」、「切り倒し」しましたし、さらには「モーセの作った青銅の蛇」をも打ち砕きました。これは主のことばによって、民を病から救うために造られたものですが、それ自体が偶像のように信仰の対象になってしまったものです。

かつての証しや信仰体験も、それが主ご自身から離れてしまえば、むしろ偶像のように信仰かの妨げとなってしまいます。過去の出来事に固執するよりも、今生きて働いておられる主ご自身が大切です。必要とあれば過去と決別してでも、主ご自身との交わりを優先させましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

